

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

原発再稼働の是非いそぐな もっと住民の声を 条例求める運動はじまる

島根原発住民投票キックオフ！

島根原発2号機の再稼働に際して、松江市住民投票条例制定を求める市民団体「どうする島根原発？みんなが決める松江の会」が、11月28日松江市総合福祉センターで署名運動のスタートを切るキックオフ集会を開催しました。

集会では冒頭に元湖西市長で脱原発をめざす首長会議世話人の三上元氏が「ワクワク！民主主義のバージョンアップ！びっくりするほどの署名を集めよう」と題して講演。日本国内及びスイス、ドイツ、オーストラリア諸国での住民投票の歴史を紹介しながら、「住民の自治による活動の中でもとりわけエネルギーシフトなものが、住民投票の運動である。新浜原町では、様々な困難に合いながらも自主管理投票という形で住民投票が実現し、その後も議会の総意を揺さぶる結果を生んだ。コソコソと受任者を増やし、署名の

輪を拡げていくことが秘訣である。」と語り、憲法第95条を踏まえての活動として捉える視点を指摘しました。

賛成・反対・保留の三択に
続いて岡崎由美子（弁護士）共同代表から条例案の骨子について説明。条例案では、投票は18歳以上の住民で、再稼働に賛成・反対・保留の三択で行うこと。有効投票総数の過半数となった意見が投票資格者総数の四分の一以上に達した場合は、投票結果は尊重され、市の判断に反映されることとなっています。

署名期間は12月26日まで
リレートークでは新日本婦人の会松江支部の村穂江利子さんが、署名運動に先駆けてJA店舗前で行ったシール投票について発言。続いて松江保健生協の原健二さんが松江生協病院と松江保健生協が一体となってこの運動に取り組む決意を表明。横浜市で「みんなが決めよう国民投票の会」

の運動に取り組み男性は「受任者増やし署名運動成功のカギ。署名してくれた人にはすべて受任者になってとお願いしよう」と発言。

グリーンコープ生協島根吉田理事長と、音楽家の浜田真理子さんからのメッセージが紹介されました。会の共同代表は岡崎由美子弁護士、水野彰子弁護士、秋重幸邦島根大学前副学長の三氏が務めます。



リレートークでシール投票のとりくみを報告する参加者

グリーンコープ生協島根吉田理事長と、音楽家の浜田真理子さんからのメッセージが紹介されました。会の共同代表は岡崎由美子弁護士、水野彰子弁護士、秋重幸邦島根大学前副学長の三氏が務めます。

地域自治講座

「住民目線から島根原発再稼働を考える」

11月27日しまね地域自治研究所は、島根原発の再稼働に向けての動きが加速している中、“えねみら・とっとり”



講演する“えねみら・とっとり”山中幸子氏

（エネルギーの未来を考える会）山中幸子さんを講師に「住民目線から島根原発再稼働を考える」と題した地域自治講座を開きました。

山中氏は、福島第一原発の事故後、“逃げられなかった要支援者”が多かったとして、2013年から聞き取りやアンケートによる実態調査を行いその結果をもとに鳥取県に避難計画について何度も申し入れてきました。

「屋内退避」が重視されるようになり、今年9月から鳥取県内の高齢者・障がい者入所または通所施設113か所にアンケート調査をし、屋内に避難する必要があるスタッフの確保に不安がある結果を紹介。通所施設、入所施設とも、屋内退避中はスタッフも被災者であり、補充や交替も不可能であり屋内退避は非現実的。地域防災計画のなかに屋内退避の計画がないなど問題点を指摘しました。

市民の願いを届ける市議団の一般質問

11月定例会市議会

11月議会の一般質問は、12月6日から8日までの3日間行われました。市議団は以下の項目で質問に立ち、市長・執行部の見解を質しました。9月議会から一般質問の映像配信期間が拡充されています。ぜひご覧いただき、ご意見・ご要望をお寄せください。



田中はじめ市議会議員

- 1 島根原発2号機再稼働について
- 2 女性の健康と権利、生理の貧困について
- 3 農業を支える人材を増やす施策について



舟木けんじ市議会議員

- 1 学校教育く不登校支援
- 2 ミニシシピアカミミ
- 3 原子力災害避難計画

舟木けんじ議員（8日）

- 1 市民生活
- 2 ガメ駆除への支援

田中はじめ議員（6日）

- 1 市長の政治姿勢
- 2 憲法9条
- 3 原子力発電
- 4 新型コロナウイルス
- 5 感染症対策
- 6 米価下落対策
- 7 田和山遺跡保存



たちばなふみ市議会議員

- 1 原子力発電
- 2 新型コロナウイルス
- 3 感染症対策
- 4 米価下落対策
- 5 田和山遺跡保存